

令和7年度第2回摂津市がん検診運営委員会  
次第

令和8年2月13日(金)  
午後2時～

【議事案件】

議題1 【項目5】ダブルチェック体制における連携方法について

(資料1)

・クラウドシステムの説明(一社より)

・市内医療機関へのヒアリング調査報告について

議題2 【項目11】胃内視鏡検診における対象年齢・受診間隔について

(資料2)

## 【項目 5】

### ダブルチェック体制における連携方法について

#### 【検討事項】

ダブルチェック体制における連携方法をクラウドシステムの活用とするか

#### 【事務局案】

クラウドシステムでは、市が検査実施から二次読影への移行及び最終判定に至る経過の把握が可能である。実施医療機関としては、受診票等の郵送受取りの事務が発生せず、また市としても、がん検診や精度管理が容易になることから、すべてクラウドシステムを活用した連携方法としてはどうかと考えている。

**【項目 11】****胃内視鏡検診における対象年齢・受診間隔について**

有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン 2014 年度版より抜粋 (P.23~25)

40 歳代については罹患率・死亡率の低下が著しいこと、胃 X 線検診、胃内視鏡検診のいずれの方法であっても 50 歳以上に比べて確実に不利益が大きいことが確認できた。したがって胃がん検診の対象として 50 歳以上が望ましいと判断した。内視鏡検診では検診間隔を 2~3 年に延長した場合でも死亡率減少効果が期待できるが、偶発症の発症を減少させることができる利点がある。このため内視鏡検診では 2~3 年まで延長することが可能であると判断した。

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針より抜粋

**【対象者】**

50 歳以上の者を対象とする。ただし、胃部エックス線検査については、当分の間、40 歳以上の者を対象としても差し支えない。

**【実施回数】**

原則として同一人に 2 年に 1 回行う。なお、胃がん検診については、当分の間、胃部エックス線検査を年 1 回実施しても差し支えない。

マニュアルより抜粋 (2024 年度版 P.13)

対策型胃内視鏡検診では、実施主体は 50 歳以上の対象者（住民もしくは管轄する対象集団）に対して 2 年に 1 回の間隔で胃内視鏡検査を実施する。

**【検討事項】**

胃内視鏡検診においては、対象年齢を 50 歳以上とし、検診間隔は 2 年に 1 回に設定とするか。

**【事務局案】**

指針やマニュアル通り、対象年齢を 50 歳以上とし、検診間隔は 2 年に 1 回に設定としてはどうかと考えている。ただし、対象年齢については、胃内視鏡実施医療機関の検査体制によっては、検診対象年齢を限定することも検討したいと考えている。